

発行：一般財団法人 重い病気を持つ子どもと家族を支える財団（キッズファム財団）

Foundation for Severely Ill Children and Their Families



撮影：中村彰宏

ご挨拶

新型コロナウイルス感染症による混乱は、始まってから1年半が経過しました。まだまだ先が見えない現在、皆様も大変な日々をお過ごしのことと存じます。そのような中で、本年4月「もみじの家」が創立5周年を迎えました。

私たちキッズファム財団の前身は、「もみじの家」設立に奔走中の故喜谷昌代さんの力になりたいと集まった何人かの有志を核に作られた「もみじの家開設を支援する会」です。この会の本格的な活動は「もみじの家」開設の半年前から開設記念式典、その後の祝賀会までと考えられ、会はその時点で解散の予定でした。しかし、まだまだ頑張りたいという会員の声があり、活動の方向を「もみじの家」の利用者の支援、ひいては対象を日本中の医療ケア児と

一般財団法人 重い病気を持つ子どもと家族を支える財団
代表理事 細谷 亮太

その家族にまで助け、さらには第2、第3の「もみじの家」の設立をめざそうではないかと、会の名称を「重い病気を持つ子どもと家族を支える財団（キッズファム財団）」に変えて再出発いたしました。というわけで、わが財団も5周年を迎えました。

5周年を前に財団は昨年末に文藝春秋社から『ひとすじの光 - 喜谷昌代の生涯』を刊行しました。毎日新聞を始め多くのメディアが取り上げてくれました。なによりも昌代さんの聖心女子学院の先輩であられる上皇后美智子様からの「良かったですね」のお言葉は本当に有難いものでした。

コロナ禍による閉塞感の中だからこそ、様々な知恵を出し合っって重い病気を持つ子どもと家族を支える活動が続けて行かなければならないと私たちスタッフ一同、気を引き締めております。ご支援のほどよろしく願いいたします。

■書籍「ひとすじの光－喜谷昌代の生涯」を出版して

昨年末に財団創設者、喜谷昌代の伝記本を文藝春秋から発刊いたしました。

お読みいただいた方々から本に関するメッセージを頂戴しましたので、ここに紹介させていただきます。



喜谷さんにひと目お会いしてみたかったな、と思いました。どんなに優しく素敵な方なのだろう、と想像を膨らませるばかりです。いつも他者のためを考え実行され、生涯を奉仕活動に捧げた喜谷さんの思いが形になったもみじの家で、今こうして病気を抱える娘と日々楽しく過ごせることに感謝の思いでいっぱいです。不安や閉塞感で覆われがちな時代のなかで、まさに、ひとすじの光と思えるお話に触れ、心が温くなりました。

(もみじの家利用ご家族・M.A.様)

戦後の目まぐるしく変わりゆく世界で、困っている人々に寄り添い続け、「日本初の試み」を実現させた一人の女性を描いた本。先を見通せず不安になりがちな今日、忘れかけていた「無償の優しさ」「諦めない心」「やり続ける勇気」が湧き起こる一冊です。何かを諦めて辞めてしまう前に、ぜひ読んでほしいです！そして、この本がNHKの朝ドラ等にドラマ化されることにより、さらに多くの方に届くのではないかと期待しております。

(株式会社エービル・水谷義和様)

一読致し、ナイチンゲールの精神を体現された故喜谷昌代様のご生涯と、その最後に日本にお残し頂いた「もみじの家」という素晴らしい子どもホスピスに改めて感銘を受けました。

(原田積善会・稲垣裕志様)

私には障害者の兄がいます。そのため、子どもホスピスやもみじの家のような施設がもっと広まってほしいと思いました。また、病気と闘う子ども達や支えるご家族にこの本を知ってもらえば、まさに「光」となるに違いないと思います。この本を読んでとても感動しました。

(砧南中3年・村山心珠さん)



喜谷昌代さんの生涯を知って、人のために行動することは素晴らしいと思いました。喜谷さんが「もみじの葉の五つの部分に込めた意味」の「一生、心にとどまる教育的機会と捉える」という言葉が心に残りました。

(砧南中3年・山本莉緒さん)

拝読して喜谷昌代様の業績と人柄について深く知ることができました。ぜひ生徒にも紹介したいと思います。読書指導の一環としてプリントも作り、授業で配布したり図書館に置こうと思います。

(私立高校教員・H.M.様)

生い立ちからの全てが神様によって準備され、そこには試練や困難が待ち受けていたのに、喜谷様はそれらを見事に乗り越えられて、力を貸してくれる素晴らしい方々に巡り合ってきた感じがします。重い病気の子どもたちに対して手を差し伸べようと思っても、簡単にそれが出来ません。やはり、子どもたちから関わりが持てる場が必要だと思います。財団の活動が世に広まり、世の中が重い病気を持つ子どもたちを当たり前として受け入れる社会が出来たら素晴らしいと思います。

(医療機器関連団体・伊野公基様)

喜谷さん、本当に素晴らしい方でした。この本は、特に若い人にぜひ読んでもらいたいです。日本赤十字学学奉仕団の団員として、南半球の豪州の地で何かできないことがないか考えてみます。貴財団の今後の益々のご発展をお祈りしております。

(オーストラリア在住・池田俊一様)

喜谷さんやもみじの家への関心から手に取りましたが、読み進むほどに、よくぞこの本を世に出してくださったという思いが強くなりました。自分も含め、喜谷さんのように自らが世を照らす光にはなり得ない多くの人にとって、それでもせめて受けた光の何分の一かは照らし返す人でありたいと思わせる内容だと思います。ネット優位だからこそ若い方がこの本を手にとられ、自身が世を照らす存在へと羽ばたくきっかけになる、そんな物語を共に未来へと包んだ気分です。

(社会福祉法人・Y.F.様)

稀にみる「行動のひと」故・喜谷昌代さんの波瀾万丈の人生とその偉業を讃えるオマージュであり、揺るぎない信念や考え、人格形成の源流を垣間見ることが出来る座右にしたい本。何より、どんな人にも同じように温かい心で接することのできる喜谷さんの「愛」に満ち溢れていて、読みながら生きる勇気が湧いてきます。

(英国在住の音楽家・平井元喜様)

喜谷さん、やっぱり素晴らしい方ですね！！簡単な伝記を作って、マンガや絵本とかで子どもや中学生とかにも知って欲しいくらいです。「もみじの家」を作ってくれて本当に感謝しています！

(もみじの家利用ご家族・A.O.様)

多くのメディアにこの本と喜谷昌代のことが掲載されました。



- ・毎日新聞
- ・読売新聞
- ・東京新聞
- ・産経新聞
- ・毎日新聞デジタル版
- ・山陽新聞
- ・沖縄タイムス他

☆財団の主なイベントご紹介

■写真展 「いのち”輝く～キッズファミ 財団ファミリーフォトプロジェクト～」 NHK 技研ギャラリー

2月8日から19日まで、世田谷区砧にあるNHK放送技術研究所1階、技研ギャラリーで写真展を実施しました。緊急事態宣言が出されている中での開催でしたが、ご来場の皆様には感染防止対策をとりながらご覧いただきました。いただいた意見・感想の一部を紹介いたします。

「寒い中、心のあたたかくなる時間でした。」

「ステキな企画、どうかお続けください。」

「この裏にご苦労があると思います。皆さま、お元気で。」

なお展示の様子は2月13日付読売新聞夕刊ウェブサイトニュースでご紹介いただきました。



■写真展示 八王子 “kikki+”

3月28日から4月27日まで、八王子市にある“まちなか交流・活動拠点 kikki+ (キッキプラス)”に写真15点を展示させていただきました。“kikki+”は八王子市の豊かな森林資源を活かした、木の香りと光にあふれた素敵な建物で、カフェ、木工製品などを販売するショップ、キッズスペースが併設されています。コンサートやワークショップなどのイベントが開催され、世代を超えた多くの方々が集い、ゆっくり、楽しい時を過ごしているそうです。いろいろな目的で訪れた多くの皆様に写真をご覧いただけたのではないかと思います。開催にあたりご尽力・ご協力いただいた多くの皆様、ご来場いただいた皆様に心より感謝申し上げます。

今後もいろいろなところで写真展示をさせていただきたいと思っております。写真を通して重い病気を持つお子さんとご家族のことを知っていただけることを願っています。

■チャリティライブ

偶数月に、YouTubeで無料生配信しています。Zoomでご参加いただき、アーティストと一緒に音楽等を楽しんでいただくことも出来ます。

■第12回 - 2020年12月16日

桜井奈津美さん(ピアノ)、長谷川彩乃さん(ボーカル)、山口雄理さん(サクソフォン)が、サンタやトナカイなどのクリスマスの飾りつけをバックに、3人の息がぴったり合った素晴らしい音楽を奏でてくださいました。長谷川さんの透き通る声と、桜井さんの優しいピアノの音色と山口さんの力強くも癒されるサクソフォンの音色のコラボレーションは心に響きました。クリスマスソングも、明るく楽しいお子さん向けの曲から、しっかりと聴かせる大人向けの曲まで多岐にわたり楽しませてくださいました。



■第13回 - 2021年2月17日

瞬時(しゅんじ)さんと柳本双又(やなもとめぬ)さんが、マジックとジャグリングのパフォーマンスを披露してく

ださいました。初めての試みとして、Zoomでお子さんにご家族にもご参加いただき、「マジック満喫。リアルにランプ謎～。ずっとこもりつきりだったので、気分転換になりました。子どもの目がギュッと開いて、楽しんでました。またそれが嬉しかったです。」というお母様からのメッセージもいただきました。

■第14回 - 2021年4月21日

長岡 杏佳さん(ソプラノ)、前田 奈央さん(ピアノ)、星川 萌恵さん(ヴァイオリン)が、春の曲を中心とした優しい音楽を奏でてくださいました。また、財団ボランティアの工藤加寿子さんによる紙芝居コーナーもありました。今回もZoomでお子さんにご家族にもご参加いただき、「おもちゃのチャチャチャ」では楽器を演奏、また「おおきなかぶ」の紙芝居では「うんとこしょ、どっこいしょ」の掛け声を一緒にかけていただくなど、楽しんでいただきました。





ご家族からのお便り **それぞれの世界へ**

宮副 和歩

一卵性双胎だった心^{しん}資^{すけ}は、在胎中に起きた血流障害の影響で相方を亡くし、本人も脳に大きな障害を持って生まれてきました。全身の反りが強く、首もすわっていない寝たきりの重症心身障害児ですが、気持ちが全て顔に出ると言われるくらいに表情は豊かです。2歳半のときには、無呼吸発作を繰り返し、気管切開の上、人工呼吸器を着けました。

人工呼吸器のおかげで体調管理がしやすくなり、在宅に戻ってからの5年以上、体調を崩しての入院は一度もありません。しかし、当時は人工呼吸器を理由に地域での受け入れ先が無く、就学前までに通えたのは、週に1～2日1時間半程度の母子通園のみでした。

待ちに待った就学。入学翌日には、名前を呼ばれると「あー」と声を出して返事をし、親を驚かせました。給食も大好きで、初期食から始め、3年生になった今



では1つ上の食形態で全量経口摂取しています。

何でも受け身の性格でしたが、少しずつ積極性も育ち、先生が「最初にやりたい人！」と声をかけると、自らアピールするまでに。学校が大好きでたまらない様子を見ると、通学籍を選択して本当に良かったと、感謝をする日々です。

東京都では特別支援学校における人工呼吸器管理についてのガイドラインが作成されました。心資も入学以来、親による自主送迎と付添いが続いていましたが、毎日安定した登校を続けられたことから校内付添いがなくなり、今春からは専用通学バスでの通学も始まっています。

生まれてからずっとそばにいた生活から、彼が親の知らない自分の世界を持ち始めました。私もすっかり、私の世界を生きたいと思います。



【もみじの家 5周年】1000人を超えるサポーターに感謝！

ハウスマネージャー 内多 勝康

もみじの家では新しいニュースレターができあがるたびに、これまでにご支援くださった皆様に郵送しています。寄付者の方、ボランティア登録されている方、絵本やおもちゃなどを送ってくださった方、一人一人に届けています。その人数が、昨年末に1000人を突破しました。

開設以来、もみじの家は毎年赤字を出し続けています。それは、医療的ケアが必要な子どもたちに看護師、保育士、介護福祉士たちが手厚いケアを行う一方で、公的な制度が未成熟なために十分な報酬が得られないためです。それでもこの5年間、なるべくサービスの量と質を落とさないよう取り組み、ご利用になった家族からも「また、もみじに来たい」という嬉しい声が聞かれます。それを可能にしているのが、サポーターの皆様のご存在であることは言うまでもありません。

昨年度は新型コロナの影響で利用人数が激減し、赤字が激増しました。それでも、それを上回るご寄付が寄せられました。1000人の想いが、子どもたちや家族の笑顔を支えています。「日本には寄付文化がない」とよく言われますが、私は口が裂けてもそんなことは言えません。「子どもたちのために役立ててください」「ほんの少力で申し訳ありません」というメッセージに触れるたびに、温かい善意に包まれてい

るような気分になります。

今年度の障害福祉サービスの報酬改定で、ありがたいことにもみじの家の収支は改善の方向に向かいます。運営が安定すれば、他の医療機関で「第2のもみじの家」が誕生する可能性が広がります。今年はその種をまくため、全国各地の関係者の皆様にご協力を呼びかけていきます。

キッズファム財団様にも、ご寄付のほか、利用料支援、タオル提供、家族写真サービスなど様々な形でもみじの家を支えていただいています。心より感謝申し上げます。



もみじの家 「寄付の樹」の前で



英国だより(6)

喜谷 喜夫



皆様コロナ禍の続く中でもお元気にお過ごしのことと存じます。東京からの便りによりますと今年も「もみじの家」周辺の桜は見事であったように聞いて居ります。それに引き換え当地英国ウインザーでは復活祭を過ぎたというのに雪が降る様な気候が続きました。それでも春の花や小動物たちは「春が来た」と活動し始めて居ます。

今年のイースター・サンデーは4月4日でした。3月29日から英国政府の「Stay at Home」の方針は終了して居ましたが家族全員が集まってお祝いする事は未だ認められずZoomでの挨拶程度になりました。それでも慣例のイースター・ツリー（卵の殻を加工してデザインする）やイースター・エッグ（チョコレート）を飾りイースターを迎えました。

現在の英国コロナ禍事情は、昨年末クリスマス前に政府から発令されたロックダウンに始まっています。リスクが高い高齢者の小生などは外出も制限され、年末以降は病院以外には出掛けられず自宅でチンマリ過ごして居りました。英国でのワクチン接種は諸外国に比べるとかなり進んで居り4月12日現在で



イースターツリー

は成人の60%（約3200万人）が1回目のワクチン接種済で7月末までに全成人に1回目のワクチン接種済を目標に16億500万ポンド（約2450億円）準備したとの事でした。

感染者数はピーク時（2020年12月）には7万人いたのが最近では2500人程までに減少して参りました。

斯様な成果を受けて英国政府は2月22日にイングランドにおけるロックダウンの緩和に向けたCOVID-19 RESPONSE—SPRING2021（新型コロナウイルス対策2021年春）を発表しました。今後6月までに3月8日、3月29日、4月12日、5月17日、6月21日の5段階に分けてロックダウンを緩和して行く道筋を示したもので、6月末にはすべての社会的接触の制限解除が期待されています。

日本の皆様もくれぐれもご自愛ください。次回の通信ではコロナの話題が出ない事を期待して居ります。



中庭のマグノリア

「ほんものの力」喜谷様から受け継ぎたいもの

聖心女子学院 校長
大山 江理子

喜谷様のことを最初に知ったのは、朝日新聞の「ひと」というコラムでした。素敵な写真が目を惹き、どのような女性かと読み始めると、聖心の卒業生であるらしい。子どもホスピス設立に尽力されているとのことで、いつかお目にかかってみたい憧れの卒業生として記憶に残りました。そして、担当している高校3年生の宗教の授業で、「女性の生き方」をテーマに扱うときに、活躍している卒業生としてその新聞記事を生徒に紹介しておりました。

そのようにして数年過ぎたある日、喜谷様から学校に電話をいただき、ご来校くださることになりました。いつかお目にかかりたいと思っていた方から連絡をいただいたことに驚き、わくわくする思いでお約束の日を待ったことを鮮明に思い出します。そして、お目にかかった印象は、私の期待と異なりました。それは、子どもホスピス設立という困難に向けて動かれるからには、ばりばりの「やり手」のような方と思い込んでいたからです。私の前に現れた喜谷様はエレガントな、謙虚で奥ゆかしい雰囲気の方と

映りました。しかし、お話を伺っていると、やさしさの奥にゆるぎない信念、人のために働くのは当然という明瞭な決断をお持ちであることが伝わってきました。「もみじの家」が開所されたら生徒がボランティアで関われないだろうかというお話に、ぜひとお答えしました。これが喜谷様との関わりの最初でした。この後に、在校生のために講演に来ていただき、赤十字ボランティア活動の経験と一方ならぬ思いを生徒と共に伺いできたことは貴重なことでした。お人柄から伝わるほんものの力、これが喜谷様にお伝えいただき、受け継いでいきたいと思うものです。



学校の図書室 書架の本

令和2年度事業報告

1. 支援事業

- 1) もみじの家等短期滞在施設利用料の支援（支援件数 116 件）
 - 2) 家族写真プレゼント（ファミリーフォトプロジェクト 1 件）*
 - 3) もみじの家利用家族へのタオル無償提供（利用家族全員）
 - 4) キッズファム・カフェの実施 0 回*
 - 5) 各種イベント等への招待（クッキングサロン、アロマボディトリートメント、美術館）なし*
 - 6) 在宅医療ケアを必要とする子どもとその家族を支える事業を実施する団体への支援に向けた検討
 - ① 重い病気を持つ子どもと家族を支援する事業・活動を行っている施設・団体との連携
 - ② Kidani スペシャルキッズプロジェクト・喜谷記念基金からの助成に向けた支援を検討
 - ③ 喜谷昌代記念こども発達支援センター・事業主体病院の方針変更により中止
 - ④ 福岡子どもホスピスプロジェクト・活動実績なし
- * 2)4)5) 新型コロナウイルス感染症予防のため休止

2. 啓発事業

- 1) 講演会の開催
「すべての子どもを育む社会を目指して」実施計画立案、準備 → 中止
- 2) 写真展の開催
4月1日～現在 国立成育医療研究センターロビー
10月27日～11月1日 世田谷美術館区民ギャラリー
2月8日～19日 NHK 技研ギャラリー（NHK 放送技術研究所 1F）
3月28日～4月27日 八王子市 まちなか交流・活動拠点 Kikki+
- 3) イベントの開催
① チャリティコンサート…未実施
② チャリティライブ（旧名称：カフェライブ）…5 回
* 6月より名称をチャリティライブに変更しライブ生配信で実施
6月17日（第9回）ヴィブラフォンと電子ピアノのデュオ演奏
8月19日（第10回）アコーディオン演奏
10月21日（第11回）打楽器と横笛とピアノによる演奏とお子さんによる歌
12月16日（第12回）ピアノとサクソフォンによる演奏と歌
2月17日（第13回）マジックとジャグリング、リモートにて親子参加型で実施
③ バザー…未実施
- 4) 喜谷昌代前理事長に関する書籍の出版
「ひとすじの光ー喜谷昌代の生涯」文藝春秋刊
12月25日発行 作成 3,000 部（財団 2,000 部、書店 1,000 部）
- 5) 財団の活動紹介
① 通信の発行（2 回 / 年度）… 通信 No.7：6 月に発行
通信 No.8：12 月に発行
② ウェブサイト、フェイスブックを通して情報発信
③ リーフレットの改訂…8 月、10 月（英文）
④ その他 11 月 15 日子ども劇場世田谷懇談会 医療的ケア児と財団についての説明会、11 月 17 日国際医療福祉大学小田原保健医療学部看護学科 医療的ケア児、もみじの家、財団について

3. 研修事業

- 1) 地域で医療的ケア児と家族のケアに携わる人々を対象とした研修会…活動実績なし
- 2) 家族支援研修会
医療的ケア児・者と家族の主張コンクール…9 月 19 日収録、9 月 28 日～財団ウェブサイト及び YouTube チャンネルで公開
- 3) 財団メンバーを対象とした研修会…活動実績なし
- 4) 研修事業助成のあり方に関する検討…活動実績なし

4. 募金活動

- 1) 個人会員の継続及び新規会員獲得への働きかけ
- 2) 個人からのご寄付への働きかけ
- 3) 企業や団体への働きかけ
- 4) 募金を主目的としたイベントの開催
① チャリティライブ…生配信による呼びかけ
② チャリティコンサート…未実施
③ TMC 商店会夏まつり…中止
④ バザー…中止
⑤ 成育写真展（募金箱）
- 5) 募金箱の設置
- 6) ウェブサイトの活用
- 7) その他
① お宝エイドによる募金
② T ポイント募金

5. 公益法人化の検討

公益法人に関する情報収集

令和3年度事業計画

1. 支援事業

- 1) もみじの家等短期滞在施設利用者及び家族へ支援
① 施設利用料の支援
② ファミリーフォトプロジェクト…コロナウイルス感染症収束までの間は方法を変更して実施
③ タオル無償提供
④ キッズファム・カフェの実施…コロナウイルス感染症収束までは中止
⑤ チャリティライブ…6 回 / 年（偶数月）、コロナウイルス感染症収束まではスタジオからの配信
⑥ 各種イベント等への招待…コロナウイルス感染症収束までは中止
- 2) 在宅医療ケアを必要とする子どもとその家族を支える事業を実施する団体への支援に向けた検討
① 重い病気を持つ子どもと家族を支援する事業・活動を行っている施設・団体との連携
② 医療型短期入所サービス拡充を要望する全国活動への助成
③ Kidani スペシャルキッズプロジェクトへの助成

2. 啓発事業

- 1) 講演会の開催（11 月実施予定）…コロナウイルス感染症の状況による
- 2) 医療的ケア児・者と家族の主張コンクール（9 月実施予定）…リモートにて実施
- 3) 写真展の開催
① 国立成育医療研究センターロビー…通年
② 世田谷美術館区民ギャラリー…5 月実施予定
③ NHK 技研ギャラリー…実施期間未定
④ その他
- 4) 財団の活動紹介
① キッズファム通信の発行 2 回 / 年度（6 月・12 月）
② ウェブサイトの活用

3. 募金活動

- 1) 個人会員の継続及び新規会員獲得への働きかけ
- 2) 企業や団体への働きかけ
- 3) 募金箱の設置
- 4) ウェブサイトの活用

4. 公益法人化の検討

公益法人に関する情報収集



令和2年度決算報告

令和2年4月1日から令和3年3月31日まで

(単位：円)

科目	金額	備考
I. 経常収益		
1. 基本財産運用益	255	
2. 受取会費	1,991,000	パートナー会員（10,000×112口） ボーター会員（3,000×173口）
3. 受取補助金等	10,486	
4. 受取寄付金	23,106,893	
5. 雑収益	988,131	書籍販売、お宝エイド等
経常収益計	26,096,765	
II. 経常費用		
1. 事業費	5,582,869	
1) 支援事業費	706,486	利用料支援等
2) 啓発事業費	3,565,051	書籍出版、写真展、通信発行等
3) 研修事業費	1,311,332	主張コンクール等
4) 連携事業費	0	
2. 管理費	10,206,258	
経常費用計	15,789,127	
経常外費用計	0	
当期一般正味財産増減額	10,307,638	
当期指定正味財産増減額	189,514	
正味財産期首残高	25,011,265	
正味財産期末残高	35,508,417	

History of KIDANI <8> 「MOMIJIプロジェクト」から「もみじの家」へ

当財団創設者、喜谷昌代のボランティア活動の歴史を紹介しています。

前回ご紹介した通り、1991年に英国で行われた「ジャパンフェスティバル」を機に立ち上がったMOMIJIプロジェクトは、その後、日英の赤十字社が主催する形で、日本と英国の障がいのある青少年少女の交流プログラムとして継続されることとなりました。交互に相手の国を訪問し、参加者同士の交流はもちろん、鎌倉や奈良への訪問（第2回、第4回）、オックスフォード大学訪問（第3回）、ハイドパークでの運動会開催（第5回）、電動車椅子チームの試合開催（第6回）等、その国の文化に触れたり、イベントに参加する機会を積極的に設けました。訪問先選定から交通手段手配まで、参加者に医療スタッフを加えた数十人からなる訪問団アレンジの苦労は想像に難くありませんが、MOMIJIプロジェクトに込めた5つの目標達成ため、喜谷は力を尽くしました。

第5回からは主催を赤十字社から自身で立ち上げたチャリティ団体「MOMIJI」に移し、実務だけでなくスポンサー探しから一手に引き受けることとなります。喜谷の生涯を通じ、多くの人が心を動かされた思いの強さ、そして迷いなく物事を進める姿が、ここにもあったのではないで

しょうか。

プロジェクトはその後、2001年には喜谷が外務大臣表彰を受賞し、2003年には英国で「MOMIJI」が政府公認の慈善団体として登録されるなど順調に活動を重ね、2009年、結果的には最後となる第8回を迎えます。かつて訪れた英国初の子どもホスピス「ヘレンダグラスハウス」に深く感銘を受けた喜谷は、ホスピスの利用者である重い病気や障がいのある方々を日本に招待しました。滞在中には美智子妃殿下（当時）もお招きし、日本での子どもホスピス開設の必要性を訴える講演会を開催します。これが反響を呼び、日本初の子どもホスピス「もみじの家」開設に向けた運動が本格的に始動するきっかけとなったのです。



聖路加講堂に美智子さまをお迎えして

ご寄付いただいた方々ご支援有難うございます

(2020.10.1～2021.3.31)

敬称略

芦澤 昌子 / 畔上 英子 / 安藤 美鈴 / 池上 典子 / 池末 有貴生 / 伊佐 拓哲 / 石井 千賀子 / 石井 恒樹 / 石川 八重 / 石田 篤子 / 石橋 広隆 / 石原 晶世 / 石原 恵美子 / 伊藤 啓子 / 伊藤 啓子 / 伊藤 雅彦 / 伊東 洋子 / 伊藤 美子 / 伊野 公基 / 茨木 信夫 / 今井 善・道子 / 岩田 啓子 / 植田 栄子 / 宇多小路 利子 / 梅木 孝治 / 大河原 昭夫 / 岡崎 伸 / 小川 知恵子 / 小川 典子 / 奥芝 彰子 / 尾崎 ひふみ / 小野 篤子 / 小野 登美子 / 加我 牧子 / 片山 成美 / 加藤 信子 / 加藤 眞佐子 / 川瀬 英子 / 河村 政隆 / 菊地 博信 / 岸井 貴志・智美 / 岸本 晃子 / 鬼頭 とし子 / 木原 優子 / 木村 圭子 / 工藤 加寿子 / 工藤 隆司 / 熊谷 一夫・澄子 / 熊野 喜子 / 栗原 義和 / 黒川 晴美 / 五嶋 希 / 五嶋 くみ子 / 児玉 美喜子 / 狐塚 七重 / 後藤 祥子 / 小林 京子 / 小林 康徳 / 小峰 万木子 / 込田 邦子 / 左合 治彦 / 佐藤 千鶴代 / 佐藤 マリ子 / 澤渡 美保 / 柴田 敏子 / 島谷 美成 / 清水 佳代子 / 菅野 哲介 / 杉浦 花音 / 鈴木 牧子 / 鈴木 祐子 / 鈴木 裕紀子 / 高草木 多佳子 / 高島 佐代子 / 高島 渉 / 高橋 昭彦 / 高橋 貞二郎 / 高村 節子 / 田川 元子 / 滝本 悦子 / 竹本 則男・佳代 / 立花 基子 / 土屋 幸子 / 土屋 左弥子 / 土屋 宏子 / 寺田 晴子 / 戸苅 創 / 利谷 文子 / 土肥 仁 / 富田 静枝 / 富田 純明 / 中居 文子 / 中尾 あぐり / 中島 陽子 / 永島 登代子 / 柳川 由紀子 / 西川 博子 / 西谷 久美子 / 野口 喜久代 / 橋本 文子 / 服部 真二 / 原田 京子 / 原田 淑子 / 平馬 慶子 / ファリダラマ / 深澤 ゆかり / 藤井 克徳 / 藤岡 康 / 藤麻 香織 / 藤本 篤子 / 古市 理代 / 星 多恵子 / 前田 浩利 / 前田 和恵 / 松

岡 榮子 / 松本 恭一 / 丸山 栄子 / 三浦 清宏 / 水谷 義和 / 水野 正望 / 三井 翼 / 峯 基二 / 村木 厚子 / 村田 和子 / 村中 亜弥 / 馬上 英実 / 望月 さち子 / 森田 葉子 / 森山 邦代 / 山川 好子 / 山口 彩 / 山崎 裕子 / 山田 史郎 / 山本 初子 / 横田 美奈子 / 吉國 信子 / 吉田 三恵子 / 吉田 陽子 / 吉間 のぶと / 善本 愛 / 匿名13名 / (イニシャル10名) HT / KY / MA / MH / NM / NY / SK / SS / SS / ST / (お宝エイド) 岩藤 潔子 / 上田 眞佐江 / 加我 牧子 / 鎮目 美奈子 / 清水 佳代子 / 田中 玲子 / 塚本 友歌 / 中澤 真由美 / 前田 泰子 / 村松 佐智子 / 安田 聡子 / 匿名2名

ご寄付いただいた企業・団体

海井医科器械株式会社 / 株式会社エイチ・ユウ・ジー / 株式会社GIA / 株式会社理経 / 株式会社ヘルス / 公益社団法人程ヶ谷基金 / コーユーレンティア株式会社 / 首都開発株式会社 / 聖心会三光町修道院 / 聖心女子学院みこころ会 / 聖心女子学院 もゆる会 / 世田谷稲門会地域サポート活動部会 / 東京海上日動火災保険株式会社 / 日本エマージェンシーアシスタント株式会社 / 日本ポーセリンペインターズ協会 / 益一有限公司 / 日薬連1社

*募金箱の設置については、多くの企業・団体様にご協力いただいています。設置箇所についてはウェブサイトをご覧ください。

*各種イベントに募金箱を置かせていただいています。



会員募集と ご寄付のお願い

- ★ 財団の活動は、皆様からの毎年のご寄付（年会費）によって賄われております。
- ★ 皆様からのご支援で、一人でも多くの「重い病気を持つ子どもたちと家族」を支えてください。
- ★ 会員の方には、継続的に財団通信をお送りするほか講演会等イベントのご案内を差し上げます。
- ★ 財団通信にて、お名前・団体名を開示させていただきます。匿名およびイニシャルをご希望の方はお手数ですが、財団事務局までメールまたはお電話にてご連絡ください。

◆ 年会費（4月1日から翌年3月31日）

- ① 法人会員 1口 100,000円
- ② パートナー会員 1口 10,000円
- ③ サポーター会員 1口 3,000円

※ 1口からお受けいたします。

◆ ご寄付

金額の多寡にかかわらず、ありがたく賜ります。ご支援をぜひお寄せください。

□ 口座名義

一般財団法人

重い病気を持つ子どもと家族を支える財団

1. 郵便振替

00140-0-420461

2. 三菱 UFJ 銀行 成城支店

普通 0233800

3. クレジット決済 (QR コード) →



- ★ 三菱 UFJ 銀行に初めてご送金いただいた方は、メールまたは電話でご氏名とご住所をご連絡願います。

—お知らせ—

- ★ 新型コロナウイルス感染症のため「第4回医療的ケア児・者と家族の主張コンクール」は、9月にリモート配信で実施の予定です。開催の方法また詳細につきましては、財団のウェブサイト等でご案内いたします。

- ★ Tポイント募金にご協力をお願いいたします。Tポイントカードをお持ちでしたら、ポイントを募金いただくことが可能です。下記のウェブサイトからお手続きいただけます。 <https://tsite.jp/donation/>



おかげさまで…

みなさまに愛される

街角の募金箱

小田急線経堂駅から歩いて3分のところに美容室「SHUZO」があります。経堂で36年も続いていて、遠方からのリピーターも来て下さり昔から人気の美容室です。



オーナーの菅原さんには、2016年10月からキッズファム財団の募金箱設置にご協力頂いております。現在は完全予約制で、お一人でなさっていますので予約を取るのが大変です。またゴルフがお好きでキッズファム財団のチャリ



テイゴルフにも参加して下さいました。来店して下さるお客様からのご寄付は財団の活動の為に大切に使用させて頂いております。（工藤加寿子）

編集後記

キッズファム通信 No.9 をお届けいたします。今号の発行までにはコロナ禍も収まって、いろいろな活動報告ができるかなと思っていましたが、残念ながらそのようにはいきませんでした。そういった中でも、本の出版、写真展、チャリティライブ、利用料支援といった活動を行ってきました。

今回、本の出版によっていろいろな方と交流を持てたことが大きなチカラとなりました。新聞にも大きく取り上げていただき、日本中から申し込みがありました。お知り合いの方にも読んでほしいからと複数冊購入いただいた方、学校へ寄付したいとお申し出いただいた方、海外から申し込まれた方などなど新しい出会いに感謝しています。皆さんから寄せられたメッセージは本文を参照願います。（大川）



一般財団法人 重い病気を持つ子どもと家族を支える財団
(キッズファム財団)

〒157-8535

東京都世田谷区大蔵 2-10-1
国立成育医療研究センター内

TEL 03-5494-1230 Eメール zaidan@kidsfam.or.jp

URL : <https://kidsfam.or.jp> 「キッズファム財団」で検索ください

Foundation for Severely Ill Children and Their Families